令和８年１０月２１日

総務大臣　藤井 比早之　　殿

熊本県天草市港町９番１号
天草ケーブルネットワーク株式会社
代表取締役　西村正治

事後評価報告書（再評価）

無線システム普及支援事業等補助金交付要綱補足事項の規定に基づき、下記のとおり報告します。

記

１．事業概要

(1) 工事完了日　　：令和４年１月 17 日

(2) サービス開始日：令和４年４月１日

２．目標達成状況（累計）

指　標	目標 （目標年度）	（実績値/目標値）				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度 （９月末）
Wi-Fi 設置数	1,760 世帯 （令和７年度）	879/643	1,044/1,179	1,129/1,607	1,237/1,760	1,257/1,760

※欄が不足する場合は適宜追加

（参考）

提供可能回線数	利用回線数				
	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
3,300回線	879回線	1,044回線	1,129回線	1,237回線	1,257回線

３．中間評価を踏まえて実施した取組

・設置工事費無料キャンペーンの実施：開局以来、周年キャンペーン等を定期的に展開し初期導入のハードルを軽減。
・戸別訪問営業の実施：営業ノウハウを有する外部パートナーへの業務委託営業を導入し、個別世帯への丁寧な案内を展開。
・地域密着型の周知活動：市の広報紙掲載やチラシ配布、インターネット利活用説明会・イベント等の開催により認知度向上を図る。

４．評価

地区別設置目標（R7 末）　実績値（R8.9 時点）

地区名	目標	設置数	達成率
宮地岳町	80 個	86 個	107.5%
五和町城河原・手野	300 個	280 個	93.3%
天草町大江	140 個	124 個	88.6%
天草町下田・福連木	80 個	68 個	85.0%
有明町大浦・須子・楠甫	260 個	210 個	80.8%
天草町今富・崎津	140 個	84 個	60.0%
深海町	240 個	144 個	60.0%
河浦町宮野河内・新和町中田	200 個	114 個	57.0%
魚貫町・二浦町・河浦町路木	320 個	147 個	45.9%
	合計 1,760 個	1,257 個	71.4%

【家庭用 Wi-Fi 設置数について】 サービス開始以降、定期的な工事費無料キャンペーンの展開や業務委託営業による戸別訪問、広報紙等を通じた周知活動を継続しました。

その結果、宮地岳町においては目標（80 個）を上回る 86 個（達成率 107.5%）を達成いたしました。また、全体の実績数につきましても、サービス開始直後（令和 5 年 3 月時点：879 個）から令和 8 年 9 月時点（1,257 個）へと＋378 個（約 43%増加）し、右肩上がりで確実な需要拡大を続けております。

一方で対象地区の高齢化率は有明町（約 37～40%）、五和町（約 48.7%）、新和町（約 49.6%）、天草町（約 53.1%）、河浦町（約 50%超）、旧牛深地区（魚貫町・二浦町・深海町：約 54.0%）となっており、いずれの地域も熊本県平均を大きく上回る極めて高い高齢化率（約 40%～50%台超）を示す超高齢化地域にあります。

しかしながら、地域住民の間では「有線光回線ならではの安定した通信品質」に対する理解と信頼が着実に浸透してきており、潜在的な利活用需要は引き続き強固に存在していることを確認しております。

今後は、継続して工事費無料キャンペーン等を実施しながら、専門的ノウハウを持つ業務委託営業（注 1）を再投入・強化し、未加入世帯に対するきめ細やかな個別アプローチを推進いたします。あわせて、モバイル回線に対する光回線の優位性（通信速度・高品質・大

容量）を体感型イベント等でアピールすることで需要を喚起し、最終的な目標達成に邁進してまいります。

（注 1）業務委託営業：豊富な営業ノウハウと専門性を有する事業者に訪問・案内業務を委託することで、自社主体の訪問よりも高い顧客アプローチ成果および加入獲得効果を見込むもの。

【利用回線数・利活用促進について】 利用回線数につきましても、各種施策の展開を通じて順調に拡大傾向を維持しております。

超高齢化が進行する地域柄、インターネットの契約・利用に対しては段階的なアプローチが必要とされますが、行政手続きのオンライン化や日常におけるデジタル活用の広がりに伴い、高齢者層における関心・利用意向は年々高まっております。

今後は、継続して工事費無料キャンペーン等を実施しながら、専門的ノウハウを持つ業務委託営業を再投入・強化し、未加入世帯に対するきめ細やかな個別アプローチを推進いたします。あわせて、モバイル回線に対する光回線の優位性（通信速度・高品質・大容量）を体感型イベント等でアピールすることで需要を喚起し、最終的な目標達成に邁進してまいります。